

昭和37年 東京・早稲田戸塚町

東京芽室会 会長 栄前田 勝良



今年で55年になる。昭和37年春、北海道・芽室町から根室本線、函館本線、青函連絡船、東北本線を乗り継いで30時間余、ようやく上野駅について東京での下宿先、早稲田戸塚町に落ち着いた。その年は大学受験に失敗し、東京での予備校通い、大学受験浪人である。予備校の紹介で決めた下宿は早稲田大学のそばで予備校まで徒歩10分、3畳ひと間2食付で1ヶ月6000円、昼食は大学の学生食堂を利用して1食100円ほど。下宿は予備校生ばかり10名ほど、大学に受かると出て行くという約束で、まじめに勉強している扱い易い学生を預かっていた。日本全国から集まった予備校生は多少のなまりはあっても純朴で付き合やすかった。同じ予備校生が多く、朝は一緒に下駄履きで歩いて通った。午前中部、午後の部、夜間の補習に分かれていて、私は午前と夜間の両方に通った。受験浪人といえども日曜日は予備校も休みで、勉強も一休み。下宿の仲間と下宿の近くの停留所から、片道15円の都電に乗って銀座へ行ったり、都バスで新宿へ行ったり、少ない小遣いでささやかに東京を楽しんだ。昭和39年の東京オリンピックの2年前、東京は大きく変貌していたが、早稲田戸塚町に閉じこもっていると、その喧騒もあまり感じなかった。もちろんパソコン（インターネット）・携帯電話はおろかテレビもない生活、コンビニも宅配便もない時代、故郷は遠く、若い元気な時代で食欲は旺盛で受験勉強中の夜食は貧しかった。インスタントラーメンが出たころですいぶんお世話になった。

私の実家は芽室町伏美で農家だった。父と母は農繁期には朝星夜屋で働いて、毎月、東京へ仕送りをしてくれた。親から送ってくる仕送りが本当にありがたく楽しみだった。それだけに両親の住む北海道に対する郷愁の念

が染み付いて、いつになっても北海道・芽室町が恋しい。55年たった今でも本籍は芽室に残してある。そして、昭和37年以来55年間、1年も欠かさず帰郷している。仕送りをしてくれた母は今年95歳になるが芽室で元気にしている。大学は中央大学法学部に受かった。

今は川崎に住んでいるが、今年（平成29年）5月に55年ぶりに早稲田戸塚町を訪れた。地下鉄「早稲田」で降りて、早稲田大学の構内を通る。予備校は都内のどこかに移転したとかで、その跡は早稲田大学の建物になっていた。そこから歩いて10分、元の下宿先の「渡部さん」を訪ねたが、その家はなかった。55年の歳月は街を大きく変えて、マンションが乱立していた。

石材クリーニング(清掃)のサーリット

石材（墓石・家の塀・玄関・庭石）を手洗いで清掃している会社です。我々のふるさと（北海道）をいつまでも綺麗に共に保存しませんか。

お問い合わせ、お待ちしております。

合同会社 サーリット 代表社員 早坂一也

〒065-0027 北海道札幌市東区北27条東17丁目1-2
Tel:011-313-0134・FAX: 011-351-5703
<http://salit0615.com/>



四季の語らい、
くつろぎのひととき。



BANQUET
宴会・会議

ACCOMMODATION
宿泊

RESTAURANT
レストラン



アルカディア市ヶ谷
私学会館
<http://www.arcadia-jp.org>

JR線・地下鉄(有楽町線・新宿線・南北線) 市ヶ谷駅 徒歩2分
宴会予約直通ダイヤル 03-6685-0540
宿泊予約直通ダイヤル 03-6685-0541
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25